

## 久米島モデルに熱視線

トンガ王国など6か国が視察

10月31日(木)トンガ王国大使を代表とする6ヶ国の方々「久米島モデル」の視察のため来島されました。今回の視察は昨年、小島嶼国開発途上国の国連代表や副代表(トンガ・サモア・ツバル)が久米島を訪問したことをきっかけに実現したものです。各国、自国での「久米島モデル」の展開を検討するための視察となっています。

近年、この「久米島モデル」は、熱帯・亜熱帯地域での展開可能性が注目を集めており、国内外から関心が高まっています。



※「久米島モデル」とは汲み上げた海洋深層水と表層水を、まず始めに海洋温度差発電に使用し、発電後の海水を養殖事業、冷熱利用農業、製造業、観光業に複合的に利用する久米島独自の海洋深層水活用方法です。



## 笑顔と賑わいの一日

久米島町産業まつり

12月1日(日)久米島ホテルドームで産業まつりが開催されました。午前9時のオープニングセレモニーを皮切りに、ドーム内では褒賞授与式や展示コーナー、健康増進コーナーや特産品販売が行われました。今年もエアー遊具が大人気でした。屋外では、苗木や久米島産紅芋の無料配布、野菜や特産品の販売があり、飲食コーナーではおでんや牛汁、天ぷらなどを提供。車エビのつかみ取りには子供たちが長い行列をつくり子供から大人まで楽しめるプログラムで大盛況となりました。

## サンゴ苗付け体験で海の未来を学ぶ

10月13日(日)久米島ホタレンジャー27名がサンゴ苗付け体験(久米島漁協サンゴ養殖部会主催)に参加しました。ホタレンジャーは1年を通じて自然環境や生き物のつながりを学んでおり、今回は当体験でサンゴ保全活動への理解を深めました。

サンゴ養殖部会は、生物多様性に富んだ久米島の海を守るため、島内学校や子どもたちを対象に海中環境教育を行っており、今回の苗付け体験はサウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援基金助成事業を活用して実施しました。



## 久米島の海の幸が大集合

「海の幸を食べてくだ祭」(主催:久米島町漁業集落)が11月9日(土)に開催され、久米島近海で取れる海の幸を求めて多くの来場者で賑わいました。魚介類販売のほか、車えび等の掴み取りやサンゴ苗付け体験、アオウミガメや藻場の調査を行っている水産技術研究所職員による講話などが行われました。

この祭りは島内での魚食普及を図るため町漁業集落が離島漁業再生支援交付金を活用して実施しています。